

## トマト萎ちょう病菌のレースについて

農業研究センター 農産園芸研究所 病虫部

### 研究のねらい

従来から、トマト萎ちょう病にはレースJ<sub>1</sub>、レースJ<sub>2</sub>及びレースJ<sub>3</sub>(現在は根腐萎ちょう病と改訂)が知られており、地上部の病徴ではほとんど区別がつかない。特に、レースJ<sub>1</sub>とレースJ<sub>2</sub>では、発病時期および病徴が全く同じである。

これまでに県下では高温時に発生しやすいレースJ<sub>1</sub>と低温時に発生しやすい根腐萎ちょう病(旧レースJ<sub>3</sub>)の発生が認められていた。その防除対策として抵抗性品種の導入や抵抗性台木への接ぎ木栽培で回避してきた。

しかし、近年その抵抗性品種や台木が黄化、萎ちょうし、激しいときは枯死する病状が認められるようになり、レースJ<sub>2</sub>の可能性が示唆された。

そこで、県下で発生した萎ちょう病り病株から分離した病原菌をトマト数品種に接種し、レース検定を行った。

### 研究の成果

1. 各地域の萎ちょう病菌を、判別品種(ポンデローザ、興津3号、ウォルター)の幼苗に接種し、病原性を確認したところ、り病性品種のポンデローザとレースJ<sub>1</sub>抵抗性品種の興津3号は発病し、レースJ<sub>1</sub>及びレースJ<sub>2</sub>抵抗性品種のウォルターは発病しなかった。
2. また、参考品種として供試したハウス桃太郎(レースJ<sub>1</sub>抵抗性)及び端健(レースJ<sub>1</sub>及びレースJ<sub>3</sub>抵抗性)もすべての病原菌で発病した。
3. この結果、供試した接種菌株は、すべてレースJ<sub>2</sub>であると判断された。
4. したがって、県下に発生している萎ちょう病はレースJ<sub>2</sub>の可能性が高く、発病地帯では陽熱処理やくん蒸処理等の土壌消毒に努める。

表 1 県下各地の萎ちょう病株から分離した病原菌の判別品種に対する病原性

供試菌株 (採取地)	ボンデローザ		興津3号		ウォルター		ハウス桃太郎		瑞 健	
	地上部	導管	地上部	導管	地上部	導管	地上部	導管	地上部	導管
1. (八代市)	×	±	-	0	+				×	
2. (玉名市)	×	+	-	0	×				+	
3. (岱明町)	×	+	-	0	×				×	
4. (阿蘇町)	+	±	-	0	×				×	
5. (清和村)	+	±	-	0	+				+	
6. (竜北町)	×	×	-	0	×				+	
対照(レ-スJ <sub>1</sub> )	×	-	0	-	0	-	0	-	0	
対照(レ-スJ <sub>2</sub> )	×	+		-	0	+			×	

注)調査基準(地上部) - :健全 + :黄化~下部落葉 × :全身萎ちょう  
 (導管) 0 :健全 :わずかに褐変 :部分的に褐変  
 :全身的に褐変